

総合市民センター

☎(24)9511 ☎(23)7444

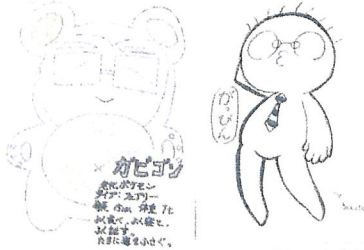
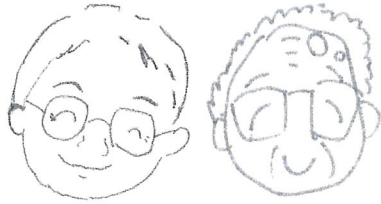
㊿祝日、年末年始

▼ガビン先生と楽しく学ぼう!

「日本の古典文学 旅」

+ちよっとウラ話

6月5日㊿、8月7日㊿、11月13日㊿、
令和9年1月29日㊿10時~11時30分
/内容=日記等の作品を読む事で日
本文化を知る/講師=伊藤 雅敏先
生/対象=市内在住者/定員=35人
(申込順)/申込=4月17日㊿9時~
電話にて*土日も17時まで申込可



雅敏

今年八月六日(金)
十時~
総合市民センター

ちよっとウラ話

110. 1

「日本の古典文学 旅」

ガビン先生と
楽しく学ぼう



令和八年四月二十六日(日)
十四時
茂原市総合市民センターにて



「ほれ話
少しだけ」



伊藤雅敏
ガビン



「サラダ記念日」

俵万智

昭和62 (1987)

「寒いね」と話しかければ 「寒いね」と
答える人の いる あたたかさ

- ・オウム真理教設立
- ・丙午 出生率戦後最低 134万人
- ・アサヒスーパードライ 大ヒット
- ・中曽根内閣
- ・国鉄からJRへ
- ・朝日新聞社阪神支局銃撃
- ・石原裕次郎逝去
- ・「雪国」
- ・「ガラスの十代」
- ・マイケルジャクソン幸楽苑コンサート
- ・おにゃん子クラブ解散

令和って なあに？

天平2年(730年)正月73日

我が園に
梅の花散る
ひさかたの
あめ 天より雪の
流れ来るかも
大伴旅人

正月の祝宴の華やかさ

福岡県太宰府の長官(大伴旅人)宅で梅花の宴

外交の入口の役目+海外との文化交流の窓口

梅||中国から渡来した流行の最先端の花

漢詩の文化 花と言えば「梅」

貴族の教養+政治とのつながり

「背景」

宴会ではあるがドンチャン騒ぎは無い

藤原氏の陰謀により、左遷 「長屋王の変」

『あのころは たのしかったなあ...』

『なかなか 人とあらずは

酒壺に なりにてしかも

酒に染みなむ

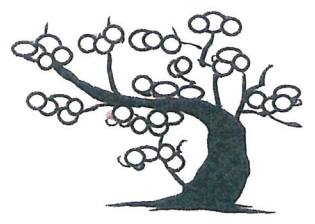
なまじつか人として生きていない

で

いっそ酒壺になって

一生 酒に漬かっていたいものだ

大伴旅人



新元号「令和」記念

初めての万葉集講座

令和元年十一月二十九日(金)

茂原市総合市民センター

◎ 新元号『令和』の意味とは？

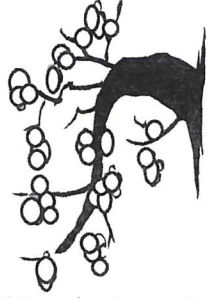
☆ 当時の安倍首相の談話より

人々が美しく
心を寄せ合う中で
文化が生まれ育つ

春の訪れを告げ、
見事に咲き誇る梅の花のように
一人ひとりが
明日への希望とともに、
それぞれの花を
大きく咲かせることができる。

そうした日本でありたい
と願いを込め、決定した。

元号「令和」を
生んだ歌



梅の花が 雪のようだ
花の色は 白

我が園に 梅の花散る
ひさかたの 天より雪の
流れ来るかも

大伴旅人

正月の祝宴の華やかさ

福岡県太宰府の長官(大伴旅人)宅で梅花の宴

梅 || 中国から渡来した流行の最先端の花
漢詩の文化 外交の入口の役目 + 海外との文化交流の窓口

花と言えば「梅」

貴族の教養 + 政治とのつながり

宴会ではあるがドンチャン騒ぎは無い

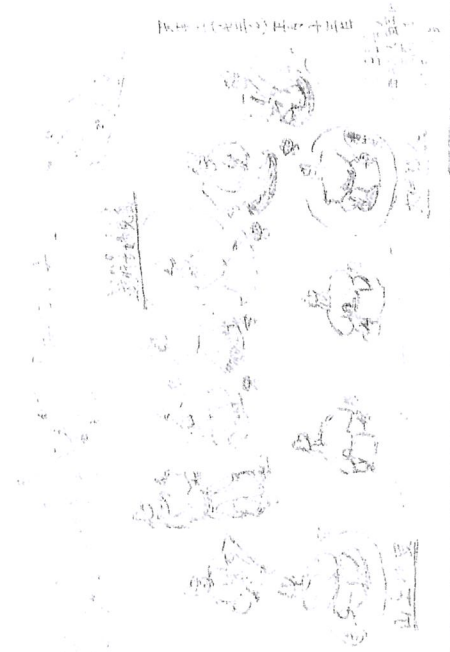
その背景

藤原氏の陰謀により、
大伴旅人は左遷
「長屋王の変」による

『あゝこのころは
たのしかつたなあ...』

『なかなか 人とあらずは
酒壺に なりにてしかも
酒に染みなむ』
なまじつか人として生きていないで
いつそ酒壺になって 一生
酒に漬かっていたいものだ
大伴旅人

大伴旅人は酒が大好き なのに...



梅花歌卅二首并序

「梅花歌卅二首并序」

梅花の歌、三十二首 并せて序

天平二年正月十三日

天平二年正月十三日、

天平二年正月十三日に

萃于帥老之宅申宴会也

萃_二于帥老之宅_一申_二宴会_一也。

帥老の宅に萃りて、宴会を申べたり。

于時初春令月氣淑風和

于_レ時、初春_○令_○月、氣淑風_○和_○

時に、初春の令月にして、氣淑く風和ぐ。

梅披鏡前之粉蘭薰珮後之香

梅披鏡前之粉蘭薰珮後之香。

梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薰らす。

加以曙嶺移雲松掛羅而傾盖

加以、曙嶺移_レ雲、松掛_レ羅而傾_レ盖、

しかのみにあらず、松は羅を掛けて、盖を傾け、

夕岫結霧鳥封穀而迷林

夕岫結_レ霧、鳥封_レ穀而迷_レ林。

夕の岫に霧結び、鳥は穀に封ぢられて林に迷ふ。

庭舞新蝶空帰故鴈

庭舞_二新蝶_一空_二帰_二故鴈_一。

庭に新蝶舞ひ、空には故鴈帰る。

於是盖天坐地促膝飛觴

於是、盖_レ天坐_レ地、促_レ膝飛_レ觴。

ここに天を蓋にし地を坐にし膝を促け觴を飛ばす。

忘言一堂之裏開衿煙霞之外

忘_二言一堂之裏_一開_二衿煙霞之外_一。

言を一室の裏に忘れ、衿を煙霞の外に聞く。

淡然自放快然自足

淡_二然自放_一快_二然自足_一。

淡然に自ら放し、快然に自ら足りぬ。

若非翰苑何以摠情

若_二非翰苑_一何_レ以摠_レ情。

もし翰苑にあらずは、何を以てか情を摠べむ。

請紀落梅之篇古今夫何異矣

請紀落梅之篇古今夫何異矣。

請はくは落梅の篇を紀せ、古と今と夫れ何か異ならむ。

宜賦園梅聊成短詠

宜_下賦_二園梅_一聊_中成_上短詠。

園梅を賦して、聊かに短詠を成すべし。

梅花の歌、三十二首と序

万葉集 815

(序文) 中国の詩序をまねる ↑ 「蘭亭集序」王羲之 おうぎし

天平二年正月十三日、

大宰の帥^{大伴旅人}旅人卿の邸宅に集まって宴会を開く。

折しも初春の正月の佳^よい月で気は良く風はおたやかである。

梅は鏡の前の白粉のように白く咲き、蘭は匂い袋のように香っている。

そればかりではない、夜明けの峰には雲がさしかかり、松はその雲の羅^{べい}をまとって蓋^{ふた}をさしかけたように見え

夕方の山の頂^{いた}には霧がかかって、鳥はその霧の穀^{うす}に封じ込められて林の中に迷っている。

庭には今年生まれた蝶が舞っており空には去年の雁が帰って行く。

そこで天を屋根に地を席^{むしろ}にし互いに膝を近づけ酒杯をまわす。

一室内では言う言葉も忘れるほど楽しく和やかであり、外の大気に向かって心をくつろがせる。

さつぱりとして各自気楽に振る舞い愉快になって各自満ち足りた思いでいる。

もし文筆によらないでは、どうしてこの心の中を述べ尽くすことができようか。

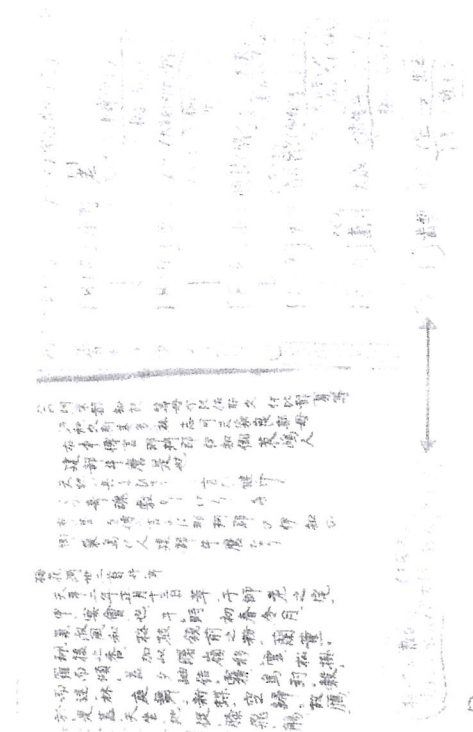
諸君よ、落梅の詩歌を所望したいが昔も今も風流を愛することには変わりがないのだ。

ここに庭の梅を題として、まずは短歌を作らたまえ。

我が園に 梅の花散る
ひさかたの 天より雪の
流れ来るかも

大伴旅人

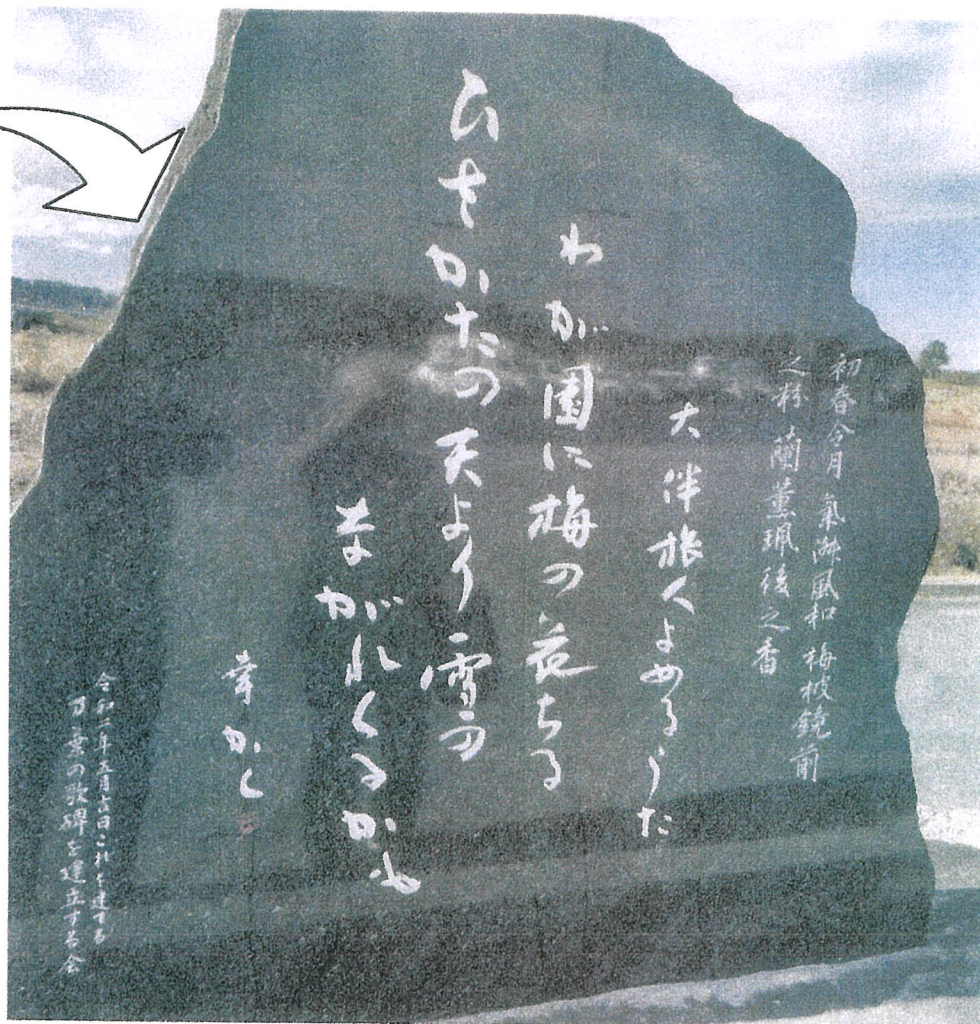
『 なかなか 人とあらずは
酒壺に なりにてしかも
酒に染み込む 』
なまじつか人として
生きていないで
いつそ酒壺になつて
一生
酒に漬かっていたいものだ
大伴旅人



奈良時代 「うまぐた」 = 宇麻具多

↓

現代 「まくた」



萬葉集 卷五

初春令月
 氣淑風和
 梅披鏡前之粉
 蘭薰珮後之香

初春の令月にして
 氣淑く風和らぎ
 梅は鏡前の粉を披ぎ
 蘭は珮後の香を薫らす

あたらよ

「可惜夜」：「不惜夜」

【意味】明けてしまうのが惜しいすばらしい夜

【語源】あたらし「可惜し」感情＋季節感 Ⅱ 季節は不明
過ぎ去り消えていくことを惜しむ気持ちを表す

接続語的に他の名詞に冠して用いられることもある
連体詞「あたら」：惜しくて、もつたいない せつかくの

【引用】季節感＋感情

- 「当たら」そのものに相当する、値する（連体詞的用法）
- 立派な、すぐれた
- その価値相当に扱われていないと認識
- そのすぐれた価値が失われていると感じる
- 惜しくも、もつたなくも、残念なことに（副詞的用法）

【出典】

源氏物語 さかき 「賢木」

*『あたら思ひやり深うものし給ふ人の』思慮深くて

方丈記『いかが要なき楽しみを述べてあたら時を過ぐさむ』
せつかくの時を

山家集 上 春 88 西行

『花見にと 群れつつ人の 来るのみで
あたら桜の とがにはありける』

上田敏 「牧羊神（月光）」

『ああ月は美しいなあ あのしんとした中空を
夏八月の 良夜（あたらよ）に 栗つきつて』

【出典】万葉集（1693）柿本人麻呂

紀伊国作歌二首
紀伊国にて作る歌

『たまくしげ あけまくおしき あたらよを
袖もで可札而 ひとりかもねむ』
ころもで かれて

- ・たまくしげ Ⅱ 枕詞↓朝夕にかける（開けるの意）
その箱を開ける意で「明け」にかかる
櫛などの化粧道具を入れる箱
- ・明けまく惜しきⅡ（妹シアラバ）女性：仮定条件があれば
わかりやすい
- ・衣手かれて Ⅱ 共に寝たい相手がいないことをいう

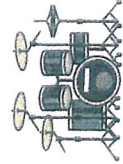
（相手がいたら）玉櫛の蓋を開けるように
明けるのが惜しい夜。
が、共に寝る子もない私には
そんな夜もひとり寝するしかない。

紀伊国に旅をして見初めた女性を指す歌であろう
夜の宴席に侍る女性に社交辞令で嘆いてみせる
文武朝の大室元年（七〇一年）
天皇に2回行幸付き
最初は持統朝（六九七年？）



【現代】

- 日本酒 菊正宗 2024 「可惜夜」
- 焼酎 宮崎県 「ひなた あたらよ」
- 2019 結成バンド「あたらよ」3人組
悲しみを食べて育つバンド
「10月無口な君を忘れる」
ポカリスエットCM 「光れ」



万葉集 1693 柿本人麻呂 紀伊国作歌二首

玉匣

たまぐしげ

詞 玉櫛等のふたを
枕 開けるように

明卷惜開

あけまぐおしぎ 明けぬのが惜しい夜

愴夜矣

あたらよきを もつたいはい
夜

袖可礼而

ころもでかれて 共に寝る子がはなれ私ほ

一鳴將寐

ひとりかもねむ そんな夜も
ひとりで寝るよはな

たまぐしげ

あけまぐおしぎ

あたらよきを

ころもでかれて

ひとりかもねむ

柿本人麻呂

和歌

連歌

奈良時代に原型

五七五 兼句

複数人で連歌る

問答歌

七七 脇句

平安時代

長句 五七五

短句 七七

交互に詠む

鎌倉時代

御養鳥羽院

百句が主流

和歌を忍べて

二と字の連なりに宿る心の響き

室町時代

1488長享又平年二十二年「水無頼二吟首韻」

侍鳥羽院に奉納 大陪府鳥本町に眠る

三吟... 宗祇 一 首柏 一 宗長

江戸

俳諧の連歌

「貞門俳諧」

松永貞徳

技巧派俳諧

掛詞

文芸としての文学

「談林俳諧」

西山宗因

風雅より

機知即興

面白

山崎宗鑑... 一夜庵 1528

入りの札

上の客人 立ち帰り

中の客人 日帰

泊まりの客人 下の下

能誦

↓ 松尾芭蕉

一句 兼句

俳句

表八句

連なる

与謝蕪村連句
小林一茶

正園子類

兼句は文学的なり
連作は才力に非ず

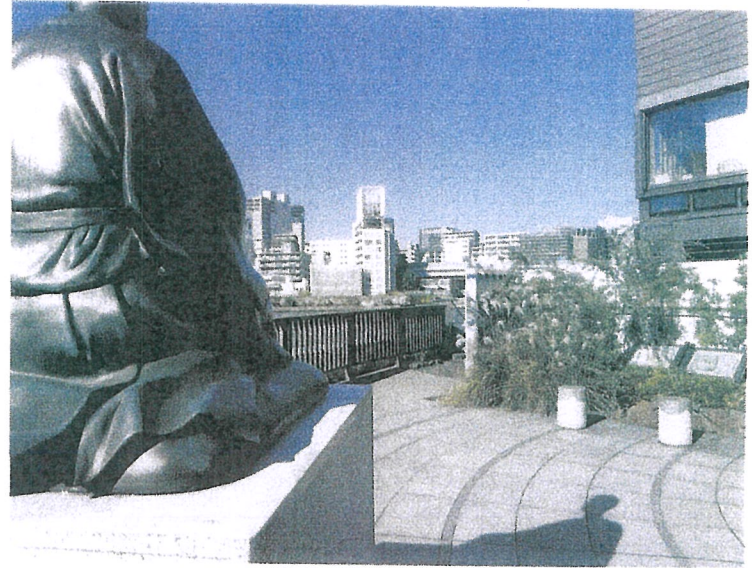
現代



「 旧芭蕉庵跡 」
現 芭蕉稲荷神社



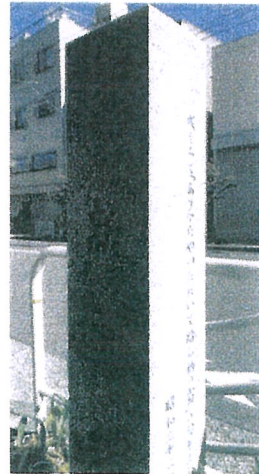
「 ミニ芭蕉庵 」？



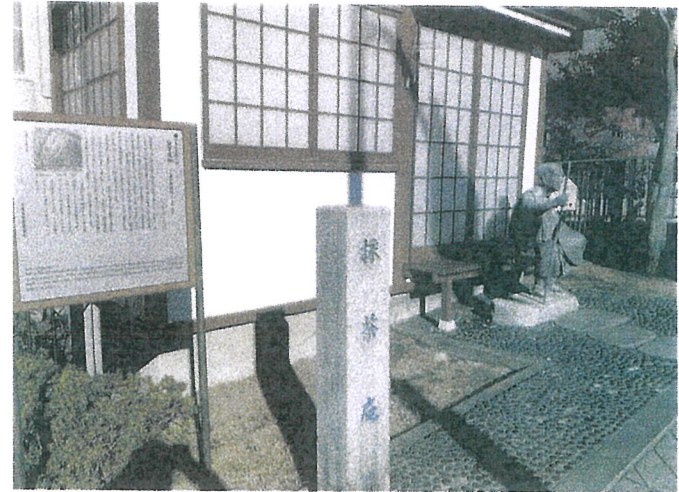
隅田川を望む芭蕉→



「 採茶庵 跡」 正面



「 旧新大橋 跡」



「 採茶庵 跡」 左から

カレゴリオ暦
1582
10/4
の次の日は
10/15

1689 (元禄2) 江戸を出发
旧 3月27日

10

「俊頼隨腦」 言葉を変らす 遊び心

源俊頼いほ成立歌論書：新し道

心を先まとて珍めづしき節を求め

詞をかざり詠むべきなり

連歌

奥山に 船漕ぐ音の聞ゆるよ... 日河内躬恒
びれる木の奥や 海渡るらむ... 紀伊貞之

山の中で船をこぐ音が... 雄草を咲かせた大輪の花
野村ま也
熟している木の奥が海を渡っているなら
船をこぐ音が... 不思議ではない... ちともヒ化
長嶋新八郎

[Q]

(1) 8/24... 何の日? (毎日2回はショートアキの)

(2) 玉三郎の世界 ついたて越へにのぞく海



若ら娘と熟年の違ひ?

(3) 松江大橋を渡る下駄の音は?

(4) 5/16... 何の日?